

# 山形村地震ハザードマップ

～災害から命を守る。日ごろの備えと地域のきずな～

近年、兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）を始め、新潟県中越地震や能登半島地震、岩手・宮城内陸地震など、日本全国で大きな被害地震が頻発しています。このような大地震は、いつ・どこで起こるかわかりません。長野県では、糸魚川-静岡構造線が中央部を縦断しており、国の地震調査研究推進本部によると、全国でも地震発生確率が高い活断層に位置付けられています。

兵庫県南部地震では、6,400人を越える方が犠牲となりましたが、右のグラフで示すように、その約8割が建物倒壊による圧死でした。地震によって建物が倒壊するかもしれない、生命・財産を守るうえにおいて決定的な違いをもたらします。

この地震ハザードマップは、建物の耐震化を促進するため、大地震が発生したとき、お住まいの地域がどのくらい揺れるのか（揺れやすさマップ）  
液状化の危険性（液状化危険度マップ）  
建物倒壊の危険性（地域の危険度マップ）  
について、避難場所や公共施設など身近な防災情報と共に示したものです。

発行：山形村

〒390-1392 長野県東筑摩郡山形村 2030-1  
電話番号：0263-98-3111  
発行日：平成22年3月



この地震ハザードマップにより、お住まい及び地域で想定される状況を確認していただき、建物の耐震化の促進や家具の転倒防止、避難所・避難ルートの確認など、日ごろからの備えに役立ててください。

## このマップの利用方法

この地震ハザードマップを参考にして、以下の項目を確認してみましょう。

- 自宅やよく行く施設、場所、よく通るところの危険度
- 避難する場所や避難ルート
- 家具の転倒防止や常備品
- 自宅の耐震診断（簡易耐震診断）や耐震改修
- 地域の自主防災組織等の活動



## 山形村で想定される地震

### 想定した地震

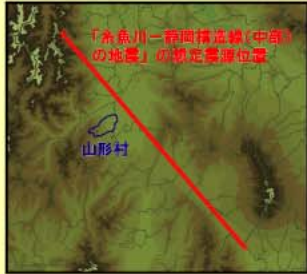
この地震ハザードマップの作成にあたっては、国や長野県の調査結果を参考として、山形村への影響が大きいと推定される、下記の2つの地震を想定しました。

#### ①糸魚川-静岡構造線（中部）の地震（マグニチュード8.0）

この地震は、新潟県から静岡県まで繋がる糸魚川-静岡構造線の中央部に位置する活断層が動くことによる地震です。国や長野県でも検討が行われており、「長野県地震対策基礎調査」では、県全体で死者約2,800人、建物全壊約106,000棟と予測しています。

#### ②山形村直下の地震（未知の断層地震、マグニチュード6.9）

現在知られている活断層以外にも、地震を発生させる断層が存在すると言われています。こうした地震は、例えば、平成20年に発生した岩手・宮城内陸地震のように、いつどこで起こるか分からないため、防災上の観点から、山形村の直下にマグニチュード6.9の地震を想定しました。

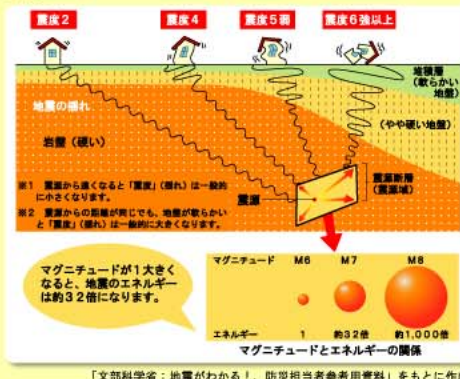


### マグニチュードと震度

「マグニチュード」とは、地震そのものの大きさを表す尺度です。一方、「震度」とは、それぞれの場所における揺れの大きさを表す尺度です。すなわち、1つの地震に対してマグニチュードは1つですが、震度は複数あり、場所によって異なります。

例えば、平成7年 兵庫県南部地震のマグニチュードは7.3でしたが、このとき、神戸市域の震度は7、大阪市内の一部の地域では震度5弱でした。

震源で発生した地震の波は、その伝わり方が、震源からの距離や地盤の状況により異なります。一般的に、震源から遠くなると震度は小さくなります。また、岩盤から上の軟らかい地層が厚いほど、揺れは増幅しやすい傾向にあります。



## ふだんからの地震への備え

### 地震に強い家・弱い家

<p><b>耐力壁が不足したり片寄っている家</b></p> <p>耐力壁（筋かいが入った壁等）が少なかったり、片寄っている建物は、大きな被害を受ける可能性があります。</p>	<p><b>瓦の重い屋根の家</b></p> <p>屋根をあまり重くすると、大きな被害を受ける可能性があります。</p>	<p><b>上下階のバランスが悪い家</b></p> <p>一階部分が車庫・ピロティになっていると、建物バランスが悪く、大きな被害を受ける可能性があります。</p>	<p><b>基礎に不備がある家</b></p> <p>建物基礎が弱い場合、大きな被害を受ける可能性があります。</p>	<p><b>老朽化している家</b></p> <p>建物が老朽化していたり、白蟻被害を受けていると、材料の強度が低下し、大きな被害を受ける可能性があります。</p>
--	--	--	---	--

その他に ●地震が悪いところに建つ建物は、大きな被害を受けるおそれがあります。  
●がけの付近、あるいは斜面に建築されている場合は、地面が崩れて、建物が被害を受けるおそれがあります。

### 地震がおこる前にできること

<p><b>●屋内のチェック</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●寝るにはできるだけ家具を置かない！出入口は避難できるスペースを確保！枕元には履き物と懐中電灯を！</li> <li>●懐中電灯などは、手の届くところに！非常持ち出し袋や備蓄品の用意を！</li> <li>●戸棚の扉にはロック機能のついたものを！</li> <li>●テレビは家具・チェンなどで固定！高いところに置かないように！</li> <li>●カーテンは防火処理を施した厚手のものに！</li> <li>●ピアノ・オルガンなどは、専門知識のあるメーカーに問い合わせよう。</li> <li>●大きな家具は人の出入りの少ない部屋にまとめるように！</li> <li>●家具・棚は転倒防止器具で固定。あるいはし学習会などで壁に固定！重いものは下に入れる！上に重いものや危険なもの（ガラスケース）を置かない！</li> <li>●冷蔵庫などは転倒防止器具で固定！</li> <li>●吊り下げ式の照明器具はチェンなどで止める！</li> <li>●ガラス戸や窓には飛散防止フィルムを！食器には滑り止めを！</li> <li>●玄関や廊下には家具や荷物を置かない！</li> </ul>	<p><b>●屋外のチェック</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●倒れやすいブロック塀や門柱等は補強！生垣に変えるのも有効です。</li> <li>●プロパンガスのボンベは、壁でしっかりと固定！</li> <li>●不安定なアンテナや屋根瓦のゆがみは修理！</li> <li>●ベランダの結木鉢や物干し等の整理整頓！</li> </ul>
--	---

## 地震だ！安全対策10か条

地震がおこったら、あわてず、下の10か条を守って行動しましょう。

- 1 まず身の安全を！**  
ケガをしたら火の始末や避難が滞ってしまいます。家具の転倒や落下物には十分な対策をとります。
- 2 すばやく火の始末**  
揺れを感じたらすばやく行動。火もたらされていたら、無理せず、揺れが収まってから火を消しましょう。
- 3 戸を開けて出口の確保**  
震動でドアが開かなくなることもあります。戸を開けて避難口の確保をしましょう。
- 4 火が出たらすぐ消火**  
万一火が出ても天井に燃え移る前なら大丈夫です。あわてず消火をしましょう。
- 5 あわてず外に飛び出さない**  
飛び出しはケガのもとです。冷静な判断をしましょう。
- 6 狭い路地やブロック塀には近づかない**  
ブロック塀の倒壊や、自動販売機の転倒に注意しましょう。
- 7 協力し合って応急救護**  
地域ぐるみで協力し合って、応急救護の体制をとります。
- 8 山崩れ、がけ崩れに注意**  
居住地の自然環境を把握して、二次災害の防止に心がけましょう。
- 9 避難は徒歩で**  
マイカーでの避難は危険なうえ緊急出動の障害になります。ルールを守る心のゆとりを持ちましょう。
- 10 正しい情報を聞く**  
事実はいつ、間違った情報にまどわされず、的確な行動をとります。

### 備えておこう非常持ち出し品

いざという時のため、右のイラストのような「非常持ち出し品」をリュックなどに入れて準備し、すぐに持ち出せる場所に置いておきましょう。

ヘルメット、水・食糧、ハザードマップ、ラジオ、懐中電灯、現金、身分証明書、携帯電話、衣類、タオル、靴下、手袋、マスク、消毒液、救急箱、防災用品

### 防災メモ

我が家の避難場所	名前	電話番号（携帯）	連絡先（勤務先、学校等）
	名前:		
	住所:		
	名前:		
	住所:		
	名前:		
	住所:		
	名前:		
	住所:		
	名前:		
	住所:		

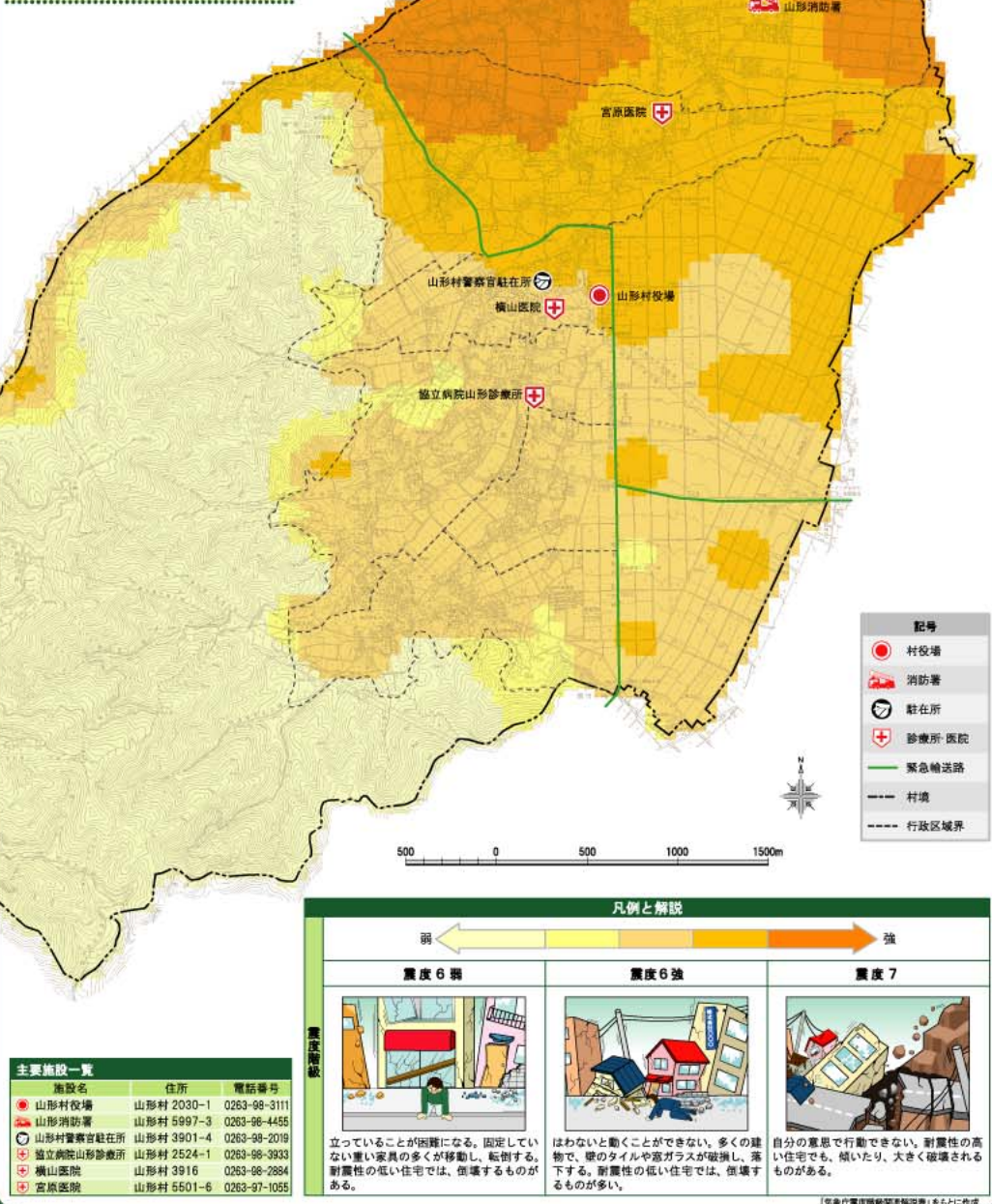
※<家庭で決めた集合場所や、防災用品をしまった場所など、必要なメモを書き留めよう！>

# 揺れやすさマップ

## 揺れやすさマップについて

この揺れやすさマップは、2つの想定地震に対する揺れの大きさ（震度）を評価し、それらを重ね合わせて、それぞれの地域で生じうる可能性のある最大の震度として取りまとめたものです。

なお、このマップで表示した震度は、地震の規模や震源の距離から予測した平均的な震度であり、地震の発生仕方によっては、これよりも強くなったり、弱くなったりすることがあります。



# 液状化危険度マップ

## 液状化危険度マップについて

この液状化危険度マップは、それぞれの地域の地形・地盤の特性を考慮して、揺れやすさマップに示した揺れの大きさに基づいた液状化の危険度を評価し、取りまとめたものです。

なお、このマップで表示した液状化危険度は、得られた地形・地盤情報に基づき予測であり、実際には局所的な人工造成地などで液状化が発生することもあるため、液状化の発生場所や規模は変動することがあります。

液状化現象

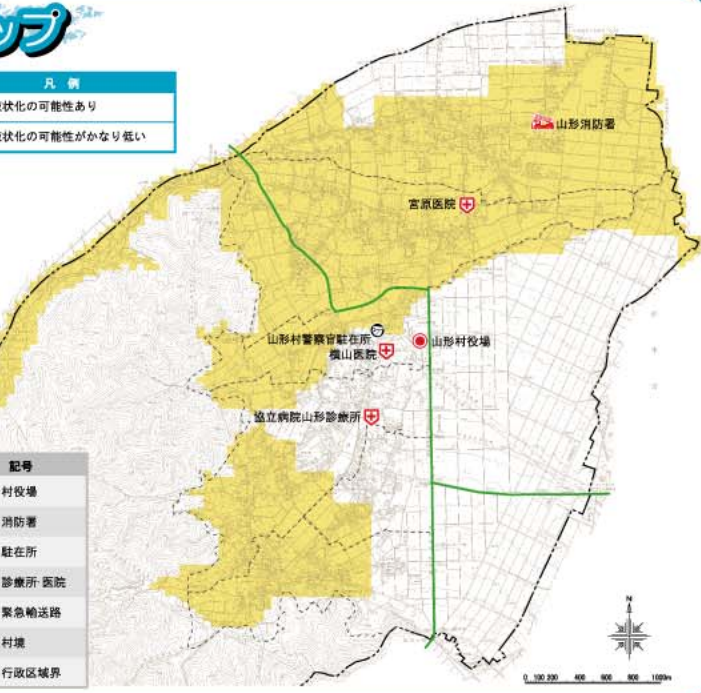
地下水位が高く、軟らかい砂からできた地盤に、地震による強い揺れが伝わると、液状化現象が発生する可能性があります。

地盤が液状化するため、重い建物を支えることができなくなり、建物の地下や基礎がむき出し、地中の弱い管路やマンホール等は浮き上がったりします。このほか、河川の護岸近傍や埋め立て地において、場合によっては数メートルにわたって沈没することもあります。

本村においては、液状化が発生する可能性の高い地域は少ないと考えられますが、ライフライン（電気、水道、下水道など）や道路等も液状化による被害を受けることがあり、その場合には広い範囲に影響が及ぶことも考えられます。

凡例

- 液状化の可能性あり
- 液状化の可能性がかなり低い



## 簡易耐震診断

### 家でできる簡易耐震診断

大地震の被害から命を守るためには、住宅の耐震性を高めることが重要です。下の表を使って、簡易的な自己診断を行ってみましょう。この診断の対象としている住宅は、1～2階建ての一戸建て木造住宅（在来地組構法、枠組壁工法（ツーバイフォー工法）などで戸建、事務所等を併用する住宅を含みます）

項目	項目	項目	項目	項目	項目
1 震度とはいつですか？	■震度とは1981年（昭和56年）6月以降	1	■震度とは1981年（昭和56年）5月以前	0	■よく分からない
2 いままでに大きな被害や倒壊したことはありますか？	■大きな被害に見舞われたことがない	1	■倒壊したことがない	0	■よく分からない
3 階層について	■階層構造が単純で、2階以上を繰り返さない	1	■必要に応じて階層を減らした	0	■よく分からない
4 壁の厚さや柱の太さ	■壁の厚さや柱の太さが適切である	1	■壁の厚さや柱の太さが適切でない	0	■よく分からない
5 建物と基礎	■建物と基礎の間に隙がなく、しっかりとつながっている	1	■建物と基礎の間に隙がある	0	■よく分からない

項目	項目	項目	項目	項目	項目
6 大きな壁がけがありますか？	■一面が4m以上の大きな壁はない	1	■一面が4m以上の大きな壁がある	0	■よく分からない
7 1階と2階の壁の厚さが一致しますか？	■1階と2階の壁の厚さが一致している	1	■1階と2階の壁の厚さが一致していない	0	■よく分からない
8 壁の配置はバランスがとれていますか？	■1階の壁は東西両側の面にも壁がある	1	■1階の壁は東西両側の面にも壁がない	0	■よく分からない
9 壁の厚さや柱の太さ	■互に比較的に壁の厚さや柱の太さが適切である	1	■互に比較的に壁の厚さや柱の太さが適切でない	0	■よく分からない
10 どのような基礎ですか？	■基礎コンクリートの厚さ（幅）が適切である	1	■基礎コンクリートの厚さ（幅）が適切でない	0	■よく分からない

合計

10点以上 2点以下

■10点以上：非常に安心ですが、念のため専門家に診てもらいましょう  
■8～9点：専門家に診てもらいましょう  
■6～7点：専門家に診てもらいましょう  
■5点以下：専門家に診てもらいましょう

※「誰でもできるお家の耐震診断」(財)日本建築防災協会  
http://www.kenchiku-bossa.or.jp

### 助成制度の活用

山形村では、「耐震診断事業」及び「既存住宅耐震補強補助」の二種類の助成制度を実施しています。詳しくは担当窓口までお問い合わせください。

問い合わせ先  
山形村総務課  
電話番号 0263-98-3111